

令和2年第13回中津川市教育委員会（定例会）議事録

日 時 令和2年12月16日（水） 午後1時30分～

場 所 にぎわいプラザ 4-1会議室

出席委員 教育長 岩久 義和
委 員 小栗 仁志 田島 雅子 三尾 和樹 橋本 あみる

事務職員 小関事務局長・大瀧教育次長（兼）学校教育課長・伊藤事務局次長（兼）教育企画課長（兼）施設計画推進室長・小栗文化スポーツ部文化振興課施設建設対策官（併）施設建設対策官・丹羽文化スポーツ部長・松井文化スポーツ部次長（兼）オリンピック推進室長・後藤教育研修所長・河合幼児教育課長・西尾発達支援センターつくしんぼ所長（兼）発達支援センターどんぐり所長・太田阿木高等学校事務長・池戸生涯学習スポーツ課長（兼）少年センター所長（兼）勤労青少年ホーム所長・原文化振興課長（兼）市史編さん室長・林鉦物博物館長（兼）東山魁夷心の旅路館長・青木中央公民館長・小池図書館長（兼）蛭川済美図書館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 教育長報告
4 議 事
5 閉 会

| 日程 | 議 事 | 件 名 | 結 果 |
|----|-------|--------------------------|-----|
| 第1 | 報第6号 | 中津川市教育支援委員会の結果報告について | 承 認 |
| 第2 | 議第40号 | 令和3年度中津川市教職員定期人事異動方針について | 承 認 |

■教育長 本日は4名の委員の出席を得ましたので、教育委員会は成立しました。ただいまから令和2年第13回中津川市教育委員会を開催します。

日程第2、前回議事録の承認につきましては、回議とします。

続いて日程第3、教育長報告を行います。前回の教育委員会以降の出席行事等を中心に報告します。

1月19日は校長会研修会に出席しました。20日は教職員の異動に関する懇談を各学校長と行いました。この懇談は26日と30日にも行いました。20日は中津川市デジタル企画展の開会式にも出席しました。同日、末松安晴先生のオンライン講義が行われ、市内の4中学校が参加しました。25日は稲津小学校と陶小学校に出向き、今年度中津川から赴任している新任校長先生を激励してきました。同日、東濃地区教育推進協議会の指定校発表会に参加しました。27日から市議会が始まりました。同日、管理職の登用などについて、東濃教育事務所長と懇談しました。12月3日は第一中学校の教育長訪問がありました。東濃地区教育長会にも出かけました。7日は県教育委員会との人事懇談の1日目に出席しました。8日と9日は市議会一般質問が行われました。市議さんからの質問については、後ほど事務局長が報告します。10日は校長研修会に出席しました。同日、つくしんぼのクリスマス会が行われました。今年は残念でしたがサンタさんは登場せず、子供も代表のみの出席となりました。11日は教頭会に出席しました。15日は県教育委員会との人事懇談2日目に出席しました。

今後の主な行事です。11月17日は阿木高校の教育長訪問です。21日には総合教育会議が行われます。委員の皆さんにもご出席いただきます。よろしくお願います。22日は市議会最終日です。年が改まり1月10日は成人式に参加する予定です。以上です。

次に、教育委員会事務局ならびに文化スポーツ部から報告します。

小関事務局長。

■事務局長 前回の教育委員会以降の主な出席行事について、ご報告します。

1月19日に校長会、20日に教頭会に出席しました。また、20日から子供科学館で中津川デジタル産業企画展が始まりました。この中で末松安晴先生のデジタル講演会がありましたので、科学館で参加させていただきました。落合、神坂、福岡、蛭川の各中学校の生徒ともオンラインでつなぐれ、子供たちも先生の講演を聞くことができました。25日、27日、12月4日、14日には中津川市内でコロナウイルス感染者が判明したことと、県のコロナ対策本部会議の開催を受けて、対策本部会議が開催されました。27日から市議会12月議会が始まりました。29日にはコロナの影響で参観なしで、加子母教育の日が行われましたが、特別に教

育長と伊藤事務局次長と私で参観させていただきました。地域の方が先生になって、各学年に合わせて地域のことを分かりやすく教えてみえました。

12月3日は、第一中学校の今年度最後の教育長訪問に同行しました。8日、9日は市議会一般質問が行われました。教育委員会事務局の関係では、牛田敬一議員、田口文数議員、木下律子議員、糸魚川伸一議員の4人の議員さんからご質問がありました。牛田敬一議員からは、希望する保育園に入れない未満児の現状と対策についてご質問いただきました。年度当初はほとんど希望する保育園に入れない未満児はいないものの、年度末に向けて徐々に増加していく現状があることと、途中退園などによる園の空き状況に応じ、毎月入園選考を行い、今年度はこれまで36人が途中入園されているなど、できるだけご希望に沿えるよう対応していることをお答えしました。

田口文数議員からは学校幼稚園保育園等の消火器具の点検、放水訓練についてご質問いただきました。点検については、年2回専門業者により行われていること、放水訓練については、幼稚園、保育園、発達支援センターには、屋内消火栓ではなくパッケージ消火設備という、水の出ない薬剤の入った消火器の大きい形のものがありますので、放水訓練は行っていないことをお答えしました。学校においては、毎回ではありませんが、放水訓練も行っていることをお答えしました。

木下律子議員からは就学援助について、ご質問いただきました。判定基準について、中津川市は生活保護基準の1.3倍になっていて、東濃の他市と比べて厳しい基準となっているということでしたが、全国的に見た場合、中津川市と同じ1.3倍の基準としている市町村が多いため、現段階では変更は考えていないことをお答えしました。また、民生委員さんの意見欄が申込書にあることにつきましては、民生委員の代表の方と教育委員会でお話ししたところ、民生委員から学校と地域と一緒に経済的に困窮している家庭を支えていくためにも、意見欄を継続していきたいとのご意見でしたので、そのご意見を尊重して、意見欄の廃止は現段階では考えていないことをお答えしました。

糸魚川伸一議員からは性的マイノリティLGBTについて、ご質問いただきました。子供たちは、公民的分野や道徳の時間に差別を解消し、共生社会を築くために必要な見方や考え方、個性や立場を尊重することの大切さを学んでいること、併せて、中津川市独自の「命の教育」の中にLGBTに関する内容を取り入れていることをお答えしました。

10日は校長会に出席しました。また、例年行っているクリスマス会は中止となりましたが、今年も中津川ライオンズクラブさんからつくしんぼとどんぐりの子供たちにクリスマスプレゼントをいただきましたので、贈呈式に出席しました。夜に

は子ども・子育て会議が行われ、新ふくおか小学校の基本設計と幼児教育施設適正配置計画（案）について、ご説明させていただきました。11日は教頭会に出席しました。同日、蛭川地区にあります青山製作所様が操業50周年を記念して、蛭川保育園、蛭川小中学校に合わせて100万円相当の備品をご寄附くださいましたので、贈呈式に出席しました。14日は、現在、市議会文教民生委員会がこども園をテーマに調査研究をされていて、その一環として坂本こども園の状況について園長先生からお話を聞きたいということで、その視察に同行しました。16日は市議会予算決算委員会が行われ、11月の教育委員会にお諮りしました補正予算について、ご審議いただきました。

今後の予定です。21日に総合教育会議が開催されます。お忙しい中恐縮ですが、15時から市役所4階大会議室で行われますので、ご出席のほどよろしくお願いたします。22日は市議会の最終日となります。23日は阿木高校がお米甲子園で金賞を受賞し、この受賞報告を市長に行うことになっていますので、同席する予定です。細かい内容については、阿木高校の事務長から報告いたします。以上です。

■教育長 文化スポーツ部からお願いします。

丹羽文化スポーツ部長。

■文化スポーツ部長 文化スポーツ部に関わる、主な行事や事業について報告します。

全国的に新型コロナウイルスの感染者が急増している中、第3波では12日現在で、県の感染者数累計は1498人、入院患者数は242人、第2波のピークの1.8倍とされています。県内では経験したことのない感染拡大に直面しています。市内の感染者は、今日の新聞では35人となっています。そのうちで11月からの感染者は28人と大変増えています。今後も文化スポーツ施設では、継続して最大限の警戒感をもって、感染防止対策の徹底をまいります。なお、年末年始の施設の休館日ですが、公民館と博物館は12月27日から1月5日まで、図書館は28日から4日までとなっております。

東美濃ふれあいセンターは29日から3日までと、例年どおりです。

主な行事です。11月27日、12月4日、14日、市の新型コロナウイルス感染対策本部会議に出席しています。11月20日、中津川市センターロータリークラブ主幹の「中津川デジタル産業企画展」が子ども科学館で開催されました。出展企業は15社、6社がピーアールポスターを展示、同日、末松安晴博士による市内4中学校の生徒約120人が参加したオンライン講演を行いました。25日、第2回社会教育委員の会（兼）公民館運営審議会を文化会館会議室で開催しました。

12月8日から10日、市議会（一般質問）が開催されました。4人の議員から

質問を受けています。田口議員から文化財の災害予防について、質問を受けています。牛田議員からはスポーツツーリズムということで、施設を合宿に活用して、市内の宿泊施設の利用という提案を受けています。勝議員、黒田議員からは交流プラザの件で、図書館機能について質問を受けています。12日、NPO中津川体育協会によるウォーキング教室が東美濃ふれあいセンターの陸上競技場で行われています。オリンピックによる小学生向けのスポーツ教室、ウォーキング教室の両方を開催しています。参加人数は約160人でした。14日、市議会文教民生委員会が開催され、指定管理者の選定7件が審議されました。16日、市議会予算決算委員会が開催されました。

今後の予定です。12月16日から1月15日、(仮称)市民交流プラザ基本設計書の意見募集(パブリックコメント)を開催しています。後ほど協議会で詳資料をお配りしてご説明します。17日、勤労青少年ホームの有料化に向けて利用者説明会を開催します。19日、文化会館リニューアルオープン式典を開催します。ぜひご参加いただきたいと思っています。20日から22日、文化会館の市民向けの一般内覧会を開催します。23日、(仮称)市民交流プラザ意見交流会を、図書ボランティアの16団体約20名が参加される予定で、中央公民館で開催します。1月5日から24日、第10回はがきコンクール入賞作品展示を図書館で開催します。

1月10日、成人式を開催する予定です。新型コロナウイルス感染症対策と一生に一度の成人式両立のため、参加者の安全確保を第一とし、徹底した感染症対策を講じた上で最小限の時間と人数で開催します。ただし、年末の市内の感染状況により中止・延期もする場合があります。部内、また実行委員会でも会議をしながら対策、今後の予定をしっかりと組んでいきたいと考えています。後ほど協議会で委員さんのご意見をいただきたいです。

22日、B&G全国サミットが東京笹川記念会館で開催される予定です。現在、青山市長が会長で、来年1月で3年の任期満了となりますが、令和3年1月からも引き続き会長に推薦をされております。市長にはぜひとお話ししているところです。1月27日、第27回国民体育大会冬季大会スピードスケート競技会「ぎふクリスタル国体2021」が31日までの5日間、恵那市で開催されます。

また本日、机上に日本遺産バッジを置いております。これは6月に馬籠記念館が日本遺産に追加認定された記念のバッジです。ご活用ください。以上です。

■教育長 ただいまの報告につきまして、何かご質問等ありましたらお願いします。ご質問等がないようですので、日程第4、議事に入ります。

議事日程第1 報第6号「中津川市教育支援委員会の結果報告について」提案説明をお願いします。

大瀧教育次長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 全国と比べて中津川市はとて多いいと言われましたが、特に判定が厳しいとか、何か分析していますか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 厳しくはないと考えています。教育支援委員会には医師、特別支援学校の先生及び県の特別支援担当の指導主事も入っていますので、厳しいとは思いません。学校が上げてくるこの判定に、お子さんの実態の捉えの甘さがあるかもしれません。もしかしたら、通常の学級でもやっていけるお子さんなのかもしれません。学校生活の中で、お子さんの様子が実際にはしっかり見えてないのかもしれません。

■教育長 田島委員。

■田島委員 学校から「判定してください」と上がってきて、その子が通常学級に行ける状態かどうかは、この先生方の判定では分からないのですか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 学校から職員が説明にまいりますので、学校での様子については、実際に携わった者からの説明である程度分かりますが、紙面での部分が半分以上になるので、実生活については分かりにくい部分があるかと思います。

■教育長 田島委員。

■田島委員 10年で2倍です。全国的に見るとかなり多いという状態は、解明しなければいけないと思いますが、いかがですか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 判定の中で、その子が特別支援学級でいいのか、通常学級でいいのかは、お子さんの様子からつかむ必要があると考えています。特別支援学級でなくても、市費の特別支援アシスタント等が付いていれば、やっていけるお子さんも中にはいると考えますので、その部分については、来年度の課題としていきたいと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 すごく客観的に考えて、例えば昔、家の庭にキョウチクトウがあるとすると、その家は何か良くないことがあるといった伝説があります。中津川市が

これだけ全国的に多いことが流布されると、中津川市は何でだろうと。そういうことはないと思いますが、対外的にも困りますよね。何とか解明する努力をしていただきたいと思います。

■教育長 補足します。現在は教育支援という呼称にしていますが、かつては適正就学指導と言っていました。そこでお子さんが持っている個別の教育ニーズを考えた際に、どのカテゴリーの集団で学ぶのがより適切であるかを判断していました。やっていることは以前も今も同じです。中津川の特別支援学級対象のお子さんが多い理由の一つは、小中学校入学以前の、特に小学校入学以前の乳幼児期からのスクリーニングがしっかりできていると思っています。これは発達支援センター等の設置が、他市に比べて非常に早かったですし、子育てに関して育てにくさを感じている親御さんの困り感に寄り添って、丁寧な指導や援助が早期に行われています。その結果、対象のお子さんがたくさん上がってくると判断しています。もう一つは、以前に比べて障がいがある根拠となるもの、例えば精神科医の診断書が出やすくなりました。さらにウイスク等の発達検査も非常に行われることが多くなりました。これは子供たちにとって、決して悪いことではないです。その結果に寄り添って適正就学指導していった結果、その子の実態に合った学びの場が選ばれることなので、良いことです。ただ、もう一歩進んで考えたときに、例えば1学級当たり10人程度しかいない学級が多い中津川で、発達障がいを持っているお子さんが先生とマンツーマンの形で指導を受けることが、いいのかどうかといったことは精査が必要だと思っています。つまり、医療的な見地やさまざまな検査から出てきたデータだけではなく、本当にこの子のこれからの成長を考えたときに、どの集団がより適切なのかということ、教育的な視点から見つめて、もう一度スクリーニングをかけるといった営みが、求められていると思っています。その過渡期だにご理解いただけるとありがたいです。

■教育長 田島委員。

■田島委員 通級のことですが、年度当初は特別支援学級に行っていたが、年度末にはもう普通学級に行けるようになった子たちの割合はかなり多いですか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 多いとはいええないと思います。全国的には分かりませんが、中津川市では、年度初めから年度終わりに通常へ戻るのは、なかなか難しいです。次年度にという判定をいただいて、翌年度から通常へというお子さんは数名みえます。

■教育長 ほかいかがですか。

小栗委員。

■小栗委員 15年という期間で見ると、非常に増えているのがよく分かります。

なぜ増えているかというのは今お聞きしましたが、この現状を捉えて、今、学校での対応が十分できているのか、困っていることがあるのか、あれば教えてください。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 知的の学級はある程度その子に応じた学習の高さで指導していますが、自閉・情緒の学級は通常の学級と同じカリキュラムで、その子に合わせて進めていきます。最終的には通常の学級へ戻していこうとしています。1年生からであれば、6年生までになんとか通常の学級に戻れるようにと進めていますが、なかなかそうはなっていきません。診断書もいただいていますので、大きな集団に入ることが難しいお子さんもみえます。そういった難しさはあります。

■教育長 補足します。最大の課題は、指導できる教員養成だと思っています。この勢いで増えてきていることは、それだけ特別支援学級の担任ができる教員がいなるといけないということです。育成が追いついていかないことが大きな課題です。さらに拍車をかけているのが通級指導です。普段は通常学級で学んでいますが、取り出す形で指導を受けます。その指導者が不足しています。これも全体と同様に、数がどんどん増えてきています。近々、定数化されていきます。対象の子が何人いたら教員を1人つけるということです。国は対象の子が17名いたら1人という定数化を計画しています。段階的にと言っています。さまざまな課題を持っている子の個別のニーズに対応して指導できる通級指導担当の育成が進んでいません。早急にやらなければならないと思います。全く手をこまねているわけではなくて、中津川には通級指導教室がありますし、そこでの指導歴のある者も徐々には育ってきていますが、実態に追いつかないことが、想定されることも大きな課題になっています。

田島委員。

■田島委員 先日のどんぐりの移動教育委員会でも、通常学級の先生の理解について話が出ました。いつも出ることです。それと、いじめにつながることに對しても、通常学級の先生方の障がいに対する理解度がとても低いという話をよく聞きます。嘆かれるのをよく聞きます。通常学級の先生方への研修や理解を深めるためにどんなことをしていますか。

■教育長 後藤教育研修所長。

■教育研修所長 例年、経年研修というのがあります。その研修では初任者、2年目、3年目など、その時期に応じた特別支援教育を盛り込みながら理解を深めることをやっています。今年度当初、なかなか研修会が行われなかったこともありますし、中津川は自主的に参加できる教育実践講座、通称夜学というのですが、そこにおいても特別支援教育の理解を深めるための研修等計画しておりましたが、なかなか

か今年度は実施できない状況にあります。そういったところで年数に応じてお伝えしていく内容、自主的に来ていただく研修会で理解を深めるというところで行なっています。

■教育長 ほかはよろしいですか。

橋本委員。

■橋本委員 この子供たちの特別支援学級への判定は、学校によって支援学級が設置されていないこと、クラスの数、情緒はあって他はないだとか、廃止などに影響はありますか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 影響はあります。実際に設置されていない学校もあるのは御存じかと思えます。例えば特別支援学級の設置では、少なくとも判定を受けた児童生徒が3名以上いないと設置できないこともあります。今回こういった判定を受けた子の人数は、学級の設置に大きく関わってきます。

■教育長 橋本委員。

■橋本委員 分かりました。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 今回160名の判定でしたが、この判定は9時半から3時半まで行われましたか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 9時半から3時半では終わらなかったもので、これ以上の時間をかけて行いました。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 ざっと計算すると、昼休みを入れて、会の時間は5時間ぐらいかと思えます。160人を5時間で判定するには、1人2、3分で行わないと難しいと思えます。そうすると、この支援委員会がやや形式化しているのではないかと感じます。先ほど学校の意見によって、大体決まるというお話でした。それをタッタッと進めていくと思えます。その場で「これはどうかな」と熟考して、判定は要らないのではないかと、保留などが出るのはまれな例で、ほとんどが学校の希望通り流れていくと思えます。だから、教育支援委員会の持ち方というか、みんなが意見を交流し合えるような、誰か1人の意見で決まるのではなくて、もう少し委員会のあり方のようなものがあるといいと思いました。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 たくさんのお子さんの判定をしますので、時間的にはかなり速く進めていきますが、軽重を付ける判定の根拠となる部分について、発達検査のことや診

断書のことなどを含めて、根拠を基に判定しています。細かな部分については、ご指摘の通り学校の生活等についても、総合的に含めて判定する必要があると考えています。

■教育長 ほかにご意見、ご質問はありませんか。

ないようですので、ご異議がなければ、報第6号については、承認ということでよろしいでしょうか。

それでは、報第6号「中津川市教育支援委員会の結果報告について」は、原案どおり承認とします。

続きまして、議第40号「令和3年度中津川市教職員定期人事異動方針について」提案説明をお願いします。

大瀧教育次長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

三尾委員。

■三尾委員 異動方針とは少し離れますが、見通しとして、令和3年度の教員の志願者数は、倍率を含めて増加傾向にあるのか、少なくなる傾向があるのか、いかがですか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 なり手は少なくなっております。本年度の教員採用試験の倍率は、約2倍でした。残念です。

■三尾委員 ありがとうございます。

■教育長 ほかはよろしいですか。

田島委員。

■田島委員 教育長訪問に同行して、小規模な学校で2、3年の先生方がとてもたくさんおられて、ベテランの方が少ないのに違和感を持ちました。小規模なところへベテランの方を入れれば、もっと交流ができたり、いろいろなことをベテランの方に教えていただく時間を作れます。規模的に若手が多いと思いましたが、配置はどう決めていますか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 市全体の人材、年齢層、中学校だと教科の関係も含めて、配置を決めてまいります。中津川市では、初任者を入れないと全ての定数が回らないことも

あり、ベテランと若い職員になってしまう学校もあります。

■教育長 田島委員。

■田島委員 いろんな先生の授業を見せてもらう機会があつて、本当に素晴らしい先生に出会うことがあります。子供たちの発表を聞いて、意味を変えないでほかの生徒に分かりやすく伝えることのできる方や、身振り手振り、表情などで本当に素晴らしい空気を作って、わくわくさせて引っ張り込む技術を持った方や、話し方の間、強弱をうまく使いこなして生徒の興味をぐっと引っ張っていく方がおられます。反対にぞんざいな口調でいいのかしらと思うのに、ものすごく子供たちから信頼を得ている方もおられます。本当に素晴らしい先生方がたくさんおられて、それは年配の方、ベテランの方や定年を迎えても残っておられる方に多いような気がします。エンターテイナーだなと思います。中津川には初任や若い方々がたくさんおられるということです。こういう方々の経験をつなげていく方法は何か考えていますか。

■教育長 大瀧教育次長。

■教育次長 各学校において若手がベテランから学ぶ機会を作るようにしておりますので、そういった中でいいものを引き継いで力にしてもらえるとありがたいと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 私は着物の着付けを教えていました。本当に片隅でやっていましたが、自分が教えるのに対して編み出した技やコツを何とか下に伝えたい、このまま朽ちてしまうのは嫌だと思っています。私はそういう機会がないですが、先生方だと底辺がとてまたくさん広がっていて、機会もたくさんあると思います。講師になって大勢に講義をするのは面倒だったり、得意ではなかったりする方々も多いかもしれませんが、お茶でも一杯飲みながら、その人の人生経験、コツや技を伝えていくことも、好きな方はできるのではないかと思います。一人の人生の生み出したコツは、もったいないと思いますので、いろいろな方から意見を聞きながら、できるだけ伝えていける形を作っていたらとありがたいと思います。

■教育長 国の制度としては、再任用制度になります。県費負担教職員ですので運用は岐阜県です。最近の退職者の多くは、退職後、年金を受給するまで5年あるので、60歳を切りにする方はかなり減ってきています。再任用に手を挙げてくださる方も増えてきました。ただ、フルタイムはちょっと厳しい、もう少し短い勤務時間でという退職者も多いので、こういった方たちの受け皿となるもの、例えばさらさ講師A、Bというものを作っています。このほかにも市費の任用が中津川には多くあり、受け皿になってきていると実感しています。ご指摘いただいたようなことは、こういった受け皿を活用することで、その教員が持っている味、技、コツなど

が、増えてきている若手の職員へきちんと引き継がれていくように、教育委員会としても、制度を十分活用したいと思っています。

ほかによろしいでしょうか。

ご意見、質問等がございませんので、ご異議がなければ、議第40号については、承認ということでよろしいでしょうか。

それでは、議第40号「令和3年度中津川市教職員定期人事異動方針について」は、原案どおり承認とします。

これもちまして、本日の議事はすべて終了しました。たくさんのご意見、ご示唆等をいただき、ありがとうございました。

それでは、事務局から次回の開催日程について報告してください。

伊藤事務局次長。

■事務局次長 次回開催日は、令和3年1月25日、月曜日、13時30分から、にぎわいプラザ4-1会議室にて定例会を開催します。

■教育長 次回は、令和3年1月25日、月曜日、13時30分から、にぎわいプラザ4-1会議室にて定例会を開催いたします。

以上で令和2年第13回中津川市教育委員会を終了といたします。

お疲れ様でした。

[閉 会 (午後2時34分)]